

おれんじニュース

No. 235

2009年10月号

沢登りの帝王と女王

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★

★山行の一步は会合から★

	10月			11月		
運営委員会	6日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	10日	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	2日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	6日	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	20日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	24日	19:00~22:00	西諫早公民館

★市民ハイキング教室：10/7, 14, 21(水曜日)開催



10月の山行計画

部	ひまわり	技術研修部	自然保護部	山行部
月 日	9日(金)	24日(土)～25日(日)	28日(水)	31日(土)
山 名 (行事)	太平山(330m)・ 大野岳(420m)	五島の山 (七岳・父が岳・笹岳)	有喜ロマン小路歩き	大船山 (東尾根紅葉登山)
地 図	伊万里	三井楽・玉之浦		大船山・久住
集合出発	JR 西諫早駅前 7:00	長崎埠頭フェリー 8:00	諫早駅バスターミナル 8:40 ニュータウン経由	諫早駅裏ローター 6:20 JR 西諫早駅前 6:30
帰着時間	17時頃	福江港フェリー 16:40	16時頃	20時頃
歩行時間				
難 易 度	初心者向き	一般・初心者可	初心者向き	一般・初心者可
交通手段	マイカー	フェリー他	路線バス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	荒川温泉(竹中旅館)		日帰り
温 泉	なし	有り		有り(時間による)
参加費	2,000円	15,000円	バス代個人負担	5,000円
申込期限	9/30まで	20日(火)まで	27日(火)まで	満員になり次第〆切
集 約	江崎幸子 0957-26-4810	米田テイ子 0957-26-0146	水江美栄子 0957-43-4947	松園朱實 0957-26-6895
特 徴	特徴 草原からの伊万里湾 一望	七ツ岳(432m)福江の 西部、岐宿町と玉之 浦との境にあり、花 崗斑岩のホルンフェ ルスでできた岩峰。 7つの岩峰が鋸の歯 のように見えます。 父ガ岳(8461m)五島 列島で一番高い山。	有喜港迄(ニュータ ウン経由) 有喜ビーチ解散	久重山群、大船山の 東側の今泉登山口よ り伽藍台経由。紅葉 が真っ盛りの頃で す。
感想提出	10/15(木)	11/10(火)	11/10(火)	11/10(火)



11月の山行計画

部	ひまわり	技術研修部 (卒業山行兼)	山行部 (30周年記念山行)	自然保護部
月 日	6日(金)	8日(日)	14日(土)~16(月)	25日(水)
山 名 (行事)	猪見山(589m)	北九州の山 足立山(597, 8m)~ 戸ノ上山(517, 8m)	四国の山 愛媛県:石鎚山(1982m) 徳島県:剣山(1954, 7m)	黒髪山(516m)
地 図	彼杵・古枝	小倉	石鎚山・瓶が森・ 剣山・谷口	有田・蔵宿
集合出発	諫早駅 7:56	JR諫早駅裏 ^{ロータリー} 7:00		
		JR西諫早駅前 7:10	J R西諫早駅 6:00	JR西諫早駅 7:30
帰着時間	諫早駅着 18:22	18:30頃	16日 20時頃	17時頃
歩行時間		4時間30分程度	石鎚山5時間30分 剣山3時間40分	2時間30分
難 易 度	初心者向き	初心者向き	一般向き	初心者向き
交通手段	列車	マイクロバス	マイカー	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	幕営1泊・旅館1泊	日帰り
温 泉	なし	有り	有り	有り
参加費	運賃実費	5,000円	20,000円	3,500円 ?
申込期限	10/29まで	満員になり次第 ^メ 切	10/20全体集会まで	11/20まで
集 約	江崎幸子	米田テイ子	松園朱實	水江美栄子
	0957-26-4819	9857-26-0146	0957-26-6895	0957-43-4947
	往路 7:56 諫早駅発→ 8:27 千綿駅着 復路 17:41 千綿駅発→ 18:22 諫早駅着	足立山は1日登山で十分満足できるコースと変化と話題性のある山。稜線には企救(きく)自然歩道があり、戸上山(とのおえやま)への縦走路がのびている。	四国の百名山二峰に登頂します。 石鎚山: アルペンムードに富む四国の最高峰。 剣山: 四国第二の高峰、信仰の山として開かれた。	コース 黒髪少年自然の家 =乳待坊展望台→ 見返り峠→黒髪山頂往復。
感想提出	11/15(日)	11/18(水)	11/25(水)	12/8(火)

技術研修部から

10月・11月の岩登り・セルフレスキュー
岩登り・・・第1木曜日・第3木曜日
ロープワーク・・・月末の土曜日に実施

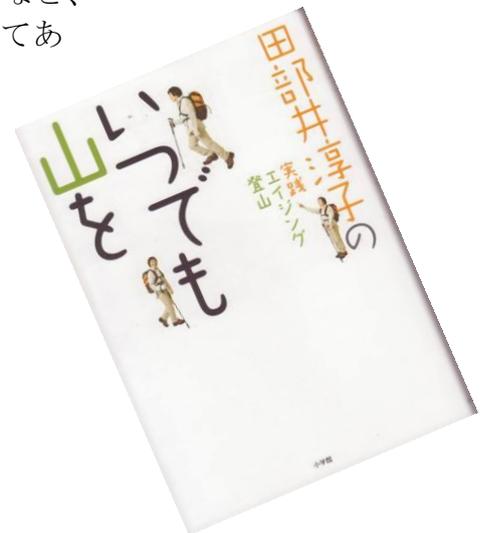


おすすめの本

田部井淳子の実践エイジング登山

『いつでも山を』 小学館

山歩きに才能はいらない、山は七十歳からでも始められるなど、山へのハードルを低くして田部井流の山の楽しみ方を書いてあります。2008年6月初版



『日本百名山』 深田久弥

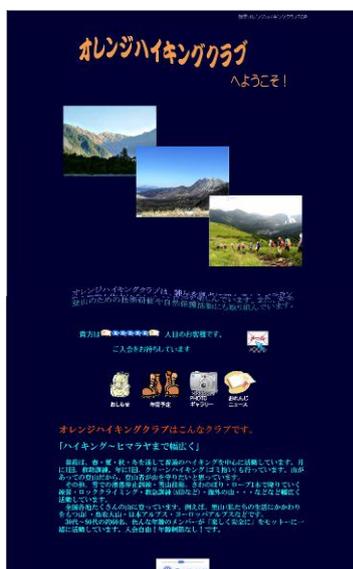
『剣岳点の記』 新田次郎 文芸春秋社

『聖職の碑』 新田次郎 講談社文庫

『八甲田山死の彷徨』 新田次郎 新潮社文庫

『健康になる山歩き 九州版』 長崎新聞社は

定価 1,575 円ですが、県連で購入すれば 1,200 円です。



オレンジハイキングホームページをリニューアル公開

URL : <http://orangehikingclub.web.fc2.com/>

または検索サイトで「オレンジハイキング」 or 「諫早ハイキング」をキーワードに検索し「オレンジハイキングクラブへようこそ」を開いて下さい。

「おしらせ」「年間予定」「PHOTO ギャラリー」「おれんじニュース」がご覧になれます(BGM 付)。

また、連絡メールで意見を寄せる事も出来ます。



8月・9月の山行報告

8月22(土)～23(日) 行滕山830m・比叡山760m

<参加者> 中須賀 篠原 川原 松尾と 福岡 山下 岩永幸 中村か 林田
佐原 岩永の 金丸な 本田(外) こもれび(宇野、石倉、藤瀬) 計 16名

<行程> 一日目 6:10 西駅発～東彼杵～金立～鳥栖～広川～北熊本～御船～高千穂
～11:45 行滕神社登山口～14:40 行滕山～16:45 行滕神社登山口～日之影温泉
駅～18:20 日之影キャンプ場着

<感想>

1日目 行滕山(ムカバキヤマ)。最初、何と読むのか?めずらしい字に登ってみたいくな
った。行滕とは武士が乗馬の際に両太ももに用いた着用具を意味するそう。山の名は雄
岳・雌岳景観の良い場所だった。岳の山の形が、それに似ていることからきているらしい。

6:10 過ぎ西駅をマイクロバスは出発。道中では雨が少し降っている所もあり心配してい
たが・・・宮崎地方に入ると、お天気は上々で安心した。

登山道は行滕神社の前から続いていた。登山の安全を願って登り始めた。登山道は歩き
やすく、日蔭の山の中をゆっくりと進んだ。しばらくは、ゆるやかで、気持ち良く登れた。



比叡山にて

進んで行く内に傾斜も厳しくなり、だんだんと息
も上がってきた。日蔭ではあるが風が全然なく、
汗がしたたり落ちてきた。ところどころの休憩が、
すごくありがたかった。林の中には、みごとな杉
の巨木が天高くそびえていた。そこを過ぎたころ
溪流の音が聞こえ始め、少し涼しさを感じながら
歩きはじめて一時間ほどして、滝見橋に着いた。
橋からは雄岳と雌岳の山間から流れる滝が見ら
れた。よく眺めていると高い所の岩山の間に咲

く数輪のニッコウキスゲを見つけた。景観の良い場所だった。滝見橋を渡った後もずっと
傾斜の厳しい上りが続き、話に聞いていた最後の水場を目指した。そこには、しっかりと

「最後の水場」の立札があった。水をたっぷり飲み、ほてる顔
を何度も冷やし・・・頂上までの元気を取り戻した。二班の私
たちは二時間半以上かかり、やっとの思いで登頂できた。頂上
は展望が良く、すばらしかった。隣には雄岳と変わらず絶壁を
容した雌岳が控えていた。岩場の上で登頂祝いの写真撮影。

難所は思ったより少なかったが、体力勝負の山だった。往路
を下山し日之影温泉で汗を流し、今日の宿泊所の日之影キャン
プ場へ移動した。



行滕山の滝

18:20 着。キャンプ場は、若者と家族ずれで賑わっていた。ビールで乾杯!つまみは枝
豆とテンプラ。夕食はカレーと温シャブと豪華な食事に満足。宴もたけなわ、こちらの楽
しさが呼び寄せたのか、宮崎のイケメンお兄さんが二人仲間に入り大いに盛り上がり一緒
に楽しんだ・・・。女性陣は少し早くバンガローへ。その設備も良く、初めての寝袋で朝
まで、ぐっすり?また一つ思い出ができました。ありがとうございました。

(金丸直美 記)

初夏～初秋の花々





アルプスの花



8月23(日) クライミングの名所 比叡山に登る

==比叡山登山口~~~一峰展望台~~~760mピーク~~~カラコロン岩~~~						
7:40	8:30	8:45	9:45	10:20	11:05	11:50
760mピーク~~~一峰展望台~~~比叡山登山口===日之影温泉===御船IC						
12:20	12:50	13:30		14:25	15:20	17:25
===広川SA===東彼杵IC						
18:10	19:45					

<感想>

オレンジに参加の山行2日目。6時起床して朝食、片付けをすばやく済ませ日之影キャンプ場を後にする。比叡山はクライミングの山として知られている。山が近づくにつれ、なるほどと思わせる山容を見せ始める。左にウォーターギャップと呼ばれる峡谷を挟んで矢筈岳がそびえていた。

千畳敷登山口より登る。すぐに千畳敷、展望は抜群だ。ここを過ぎると急登になりどんどん高度をかせいでいく。大きな石で少し歩きにくかったが辛抱！辛抱！

見晴らしのいい一峰展望台に到着。石柱が立っている。道は歩きやすくなり快適な山歩きになる。昨日と違ってときおり気持ちの良い風が吹いてきてありがたい。また急登が始まり765mのピークに達する。ここが比叡のピークになるらしい。ここからは道案内の看板が急に少なくなる。

何回かのピークを越えていくと、大きな岩の間にハシゴとロープのかかったカラコロン岩に到着した。ちょっと緊張！岩の間をくぐり抜けられるかな。足元に気をつけ、一番狭い所は体を持ち上げたようにして無事通過。一気に展望が開ける。思わず「ヤッホー」の声が出る。この一瞬があるから山はやめられない。この暑い夏にきつい思いをしながら何でこんなことをしているのだろうか、といつも思うのだが・・・そして一緒に登る友に感謝！後続の人を待つ間にエネルギー補給。



山頂にはママコナの花が咲いていた。下山する前に川原さんからレスキューの手ほどきを受け有難かった。

時間の関係上、三峰には行かないとのことで一気に下山。下りはこんなに登ってきたのかなと思うくらい距離が長く感じられた。途中にイチヤクソウの花を見ることができた。

みんな無事に下山口へ到着。昨日と同じ日之影温泉で汗を流してさっぱりとなり一路長崎へ。バスの中では宴会が始まりました。オレンジさんのおかげで遠くの山に登ることができますこと感謝します。お世話になりました。

[宇野（こもれび） 記]

8月26日（水） 轟滝～鋒火山

<参加者> 小山 佐藤 中尾 佐原 林田 山口い 水江 金丸な 高橋 計9名

<感想>

二台の車に便乗して予定通り出発。轟の滝の駐車場に着きここから歩くのかなと思いきやもっと他に駐車場があるということで整備された林道をどんどん上へ。

高来町やら干拓堤防が一望でき、向こうには小長井のさざんか高原の風車まで見えるすぐ眺めのよい所に出てきました。空は真っ青、これだけでも来たかいたねえと言いながらお昼をとるにまだまだ早い時間。ここが鋒火山ということでどこかに烽火台跡があるんじゃないかと元来た道を下り皆でさがしたら、そこには標識だけがあり別の場所に移築されていました。

途中の公園でおしゃべりしながらお昼の時間を待ち、いこいの村の東屋まで下り（ここだけ一キロ程の歩行でした）やっと時間となり昼食になりました。

いこいの村の温泉に入ることになり、今日はいつもの山行のあのあわただしい入浴と違いゆっくりと汗が流せると思いましたが、車で移動ばかりでしたのであまり汗も出てませんでした。そのあとまたまたゆっくりとくつろぎカンパニー(*^*)v

結局一日運転手付きのドライブでしたので運転手の方は乾杯もできず、本当に申し訳なく思い感謝してます。こんなオレンジハイキングもあるんだ～(*_*)

(高橋芳子 記)

8月27日 沢登り うなぎて沢

<参加者> 川原 國分 松尾と 山下 (藤瀬、石倉、佐世保より)

<感想>

おそい梅雨明けだった。いつまでも暑さが続いて、こんな日は沢登にかぎると思ひ参加した。九州ブロック元気の出る集会の沢登場所になってる、うなぎて沢に行くことになった。

私は去年2,3回行った以来の沢登りである。準備も何を持っていくのか忘れかけている。携帯メールで田村さんに聞いてみた。しっかりアドバイスいただいた。

今年、夏の始まりと同時に川原さんと何回か沢登をした田村さんはもはやベテランである。

東京から親切にレクチャーしてくれた。

暑い飲み物の用意は必須アイテムとの事。沢はうだるような真夏でも涼しいのだ。沢を登ると寒いくらい。

國分さんと、佐世保の人達とは、大村で落合い、黒木の沢の取りつきへ。

取りつきは、砂防ダムの工事の関係でいきなり登山道から崖を降りることとなった。

松尾さんはまるで山猿(ごめんなさい)のごとくいっきに降りる。私は立木につかまりな



がらおそるおそる降りる。つかもうとする立木がもろく折れる！（笑）ようやく沢におりて、やれやれとおもってたらいきなり滝だった。私が滝の前で固まっていると、川原さんがまいて登ってロープをたらししてくれる。

松尾さんは、ロープもつけずに軽々と登っていく。

ほんとに、沢に来るといつも松尾さんに脱帽である。（苦笑）

ロープで安全にささえてもらいながらやっとなを登った時は少し自慢したいような、達成感を感じた。

そのあともいくつかの難所を川原さんの指導のもと、登っていく。ブリッチをしたり、お尻からはいあがったり。松尾さんの後に行くと意外と簡単に登れたりする。（苦笑）

最後のなを登り終わって、涼しい沢でランチタイムであった。苦労して持ってきたポットのお湯でコーヒーをいれる。熱い飲み物は必須アイテムなのだ。

沢の崖面に咲く「イワタバコ」も終りがけながら咲いていた。

（山下ちづ子 記）

九プロ「元気の出る集会」に参加して

9月5～6日 大村、黒木キャンプ場にて開催された「元気の出る集会」は、九州各県より180余名の山を愛する仲間が集まり、盛大に行われました。

オレンジからも宿泊組10名、日帰り4名プラス一般3名が参加しました。

5日13時から開会され「九州の原生林を守る」「山のトイレ、環境を考える」会からの活動参画への提案がされた後、吉野和記氏「労山とは何……これまでの経験を含めて」の講演があった。これまで労山とは、左翼系の団体がつくったものだと思っていたが、発足は文化人であり、また労山をロウザンでなく、ロウサンと発音しているのは初耳であった。

分科会では「セルフレスキュー」の受講者が40名を越えることから、3班に分けて進めることになり、班のリーダーには開会前に、講師の川原さんがレクチャーして、万全の態勢で臨んだ。中高年登山者の事故が増加しているなか、さらにトムラウシ遭難死亡事故もあり、皆さんの関心が最も高いのもうなずける。

ハーネスとリュックによる簡易搬送用具の作り方と使用要領。救助者を背負ったままで交替する方法や、介添え役のロープの使い方など、オレンジで訓練していることをデモンストレーションする。参加者も背負い背負われて体験し、その効果を実感してもらった。

初めて経験した人達も、手軽で効果的なこの方法に、早速ハーネスを準備しようと話し合っている。これからの主流になって広まって行くであろう。

この他の分科会でも坂口さんが講師の「段ボール額縁作り」、「山でスケッチしよう」

「トレーニングとストレッチ」なども、それぞれ好評であったと思われる。

分科会のあと楽しみの夕食である。本当はビールを早く飲みたいだけかもしれない。

今回は簡単にすませるため、レトルトのカレーと聞いていたから、あとは酒のつまみぐらいか？チョットわびしいなーと思っていたが、なんとキムチ鍋も用意されていた。

しかも特性のおいしい豆腐までも。ビールとキムチ鍋、それにお隣の「こもれび」さんから、イノシシの肉の差し入れもあり、おなかは満腹。カレーには全く手をつけず、家への土産にする。食糧担当の山下さんに感謝！感謝！！

19時から松本ゆき夫氏による「ヒマラヤの東 カンリガルポ山群」の講演、未踏峰の6000m級13峰が連なる地域の調査と探検。山の姿と山麓の花をスライドにより説明を受ける。マッターホルンや槍ヶ岳のように先鋭な山、鷲が羽を広げたような雄大な山、まさかりか拳骨のような威容な山など、全て雪に覆われている。荘厳で神秘的である。

花のお好きな女性会員達、山の景色ばかりが続き、いささか退屈しかかっていたが、高山

植物のスライドになると俄然元気を取り戻す。見たこともない珍しい花、色とりどりの美しい花は、花に興味の薄い私でも引き込まれてしまった。未知のものに対する好奇心はまだ完全に衰え切っていないのだろう。少しは若さが残っていて安心。

21時から全体交流が始まる。オレンジとこもれびが食事をした場所が、集会場のようになり続々と集まってくる。川原さんと山下さんはホストとホステス役に徹している。

こもれびの平山さんが得意のギターを弾くと、唐津労山の男性がオカリナを吹き、場は一段と盛り上がる。音感悪く、美的感覚なし、芸術的センスゼロの自分が情けない。

宮崎西都山岳会の女性二人と話をする。女性6人で毎年アルプスへ行ってるそうだ。

しかもテント泊とのこと。ちなみにリュックは15キロぐらいかなとおっしゃる。

イヤー…、完全にオレンジは負けている。他県人との初めての交流、収穫はあった。

6日は交流登山。自然観察、沢登り、山登りなど、8コースで実施。

日帰り組も到着し、それぞれ希望のコースに分かれて行動する。まだ残暑が厳しい時期、涼しい沢登りを選択した私。久しぶりの沢、しかも初めてのウナギテ沢。初心者コースとはいえ緊張する。ワラジ講習会で作った自作ワラジの初おろしだ。



チョット大きめであるが、まあまあのものであろう。沢の中は涼しすぎる位で、滝での順番待ちでは寒くなる。

川原リーダーの下、オレンジ、佐賀労山、福岡東雲の9名は、10mほどの最後の滝で何度もシャワークライミングと懸垂下降を行い楽しく過ごした。

14時過ぎに全予定を終了したが、山登りの1グループで、熊本の女性2人がスズメバチに刺されるアクシデント

は残念であった。スズメバチ対策は、今後オレンジとしても十分に考えておく必要ありと痛感した。

オレンジからの実行委員、講師やリーダーを務められた皆さん、お疲れさまでした。

〈参加者〉

宿泊組 坂口、福岡、川原、中須賀、兵庫、井星、國分、中村か、山下、田中し
日帰り 篠原、佐原、林、山口い、（中島、高橋、角井）

（兵庫 芳隆 記）

